

三崎魚市場に水揚げされた魚類— XIX

山田 和彦・工藤 孝浩・瀬能 宏

Kazuhiko Yamada, Takahiro Kudo and Hiroshi Senou:
Fishes on Misaki Fish Market Landed from Sagami Bay, XIX

Summary. The ichthyofauna of Sagami Bay was surveyed on the basis of landed fishes on Misaki Fish Market. Although 593 fish species had been recorded since 1986, we newly added seven species in this report. Among the above seven species, *Minous pusillus* of them is new to the bay.

は じ め に

筆者らは、相模湾の魚類相を明らかにするため、神奈川県三浦市にあるみうら漁業協同組合三崎沿岸販売所（以下、三崎魚市場）において、三浦半島周辺海域で漁獲される漁獲物の調査を1986年より継続しており、これまでに593種の魚類を記録した（山田, 1990; 山田ほか, 2013）が、本報告では三崎魚市場で新たに記録された7種（相模湾初記録の1種を含む）と、生物学的に特筆すべき標本の得られた2種および1雑種について報告する。

調 査 方 法

三崎魚市場に水揚げされる魚類のうち、相模湾で漁獲されたものについて、魚種、漁獲場所、漁獲方法を記録した。ここでいう相模湾とは、伊豆半島石廊崎と房総半島洲崎を結んだ線以北のうち、観音崎—富津岬以北の東京湾を除く海域とする。調査期間は2012年9月から2013年8月までの期間である。1ヶ月に1回以上、合計30回の調査を行った。初記録となる魚種や、現場で同定困難な魚種については、採集して写真を撮影後、10%中性ホルマリンで固定した。標本は横須賀市自然・人文博物館の魚類資料(YCM-P)として登録した。また、相模湾内の分布に関して、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本(KPM-NI)および同館魚類写真資料データベースの画像(KPM-NR)を補足的に用いて記述した。

調 査 結 果

三崎魚市場から新たに記録された魚種について、通し番号、標準和名、学名、図版番号、採集年月日、漁獲場所および漁獲方法、体長(SL)または全長(TL)、登録番号ならびに分布状況の順に記載する。標準和名、学名および一般的な分布記録は中坊編(2013)に従った。

594. ヤセオコゼ *Minous pusillus* (図 1-a)

2012年10月12日、毘沙門定置網, 50.7 mm SL, YCM-P 45330

本個体は涙骨の2番目の棘が下方を向くこと、前鰓蓋骨最上棘が長いこと、尾鰭に小暗色点が散在すること、背鰭軟条数は11本であることからヤセオコゼ *Minous pusillus* に同定された。本種は新潟県・駿河湾以南の日本各地（琉球列島を除く）、朝鮮半島から中国沿岸、台湾、フィリピン、ニューカレドニアに分布するとされていた。本報告は相模湾からのこの種の初記録となる。

595. ソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis* (図 1-b)

2013年5月14日、三戸定置網, 97.7 mm SL, YCM-P 45331

本個体は胸鰭遊離軟条が腹鰭先端近くまで達すること、体側に暗色斑点がないこと、胸鰭内面はウグイス色であることからソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis* に同定された。青森県から九州、朝鮮半島から中国沿岸、台湾に分布する。相模湾からは茅ヶ崎沖(KPM-NI 25031)、江ノ島沖(KPM-NI 27987)、網



代沖 (KPM-NR 86898), 大磯沖 (KPM-NR 92032) から記録がある。

596. ヨスジフエダイ *Lutjanus kasmira* (図 1-c)

2012 年 9 月 9 日, 毘沙門定置網, 48.6 mm SL, YCM-P 45332

富山湾・千葉県以南のインド・太平洋に分布する。相模湾では荒崎および稲村ヶ崎 (中村, 1970), 竜宮島 (松岡, 1972), 田ノ浦湾 (東ほか, 1989), 富戸 (KPM-NR 17233), 三浦半島南西部 (工藤・岡部, 1991), 熱海 (瀬能ほか, 1998), 真鶴 (KPM-NR 19649), 早川 (KPM-NR 31663) などから記録がある。珊瑚礁を含む温暖海域に生息し, 本例を含む相模湾での記録は, 暖流である黒潮によって輸送されてきた卵稚仔がある程度成長し, 若齢個体として記録されたもので, 無効分散の一例と思われる。

597. アオチビキ *Aprion virescens* (図 1-d)

2012 年 12 月 25 日, 毘沙門定置網, 144.9 mm SL, YCM-P 45333

静岡県富戸以南のインド・太平洋に分布する。相模湾では熱海 (KPM-NR 11820), 伊豆海洋公園 (KPM-NR 76556), 富戸 (KPM-NR 29485), 真鶴沖 (KPM-NR 93605), 館山 (KPM-NI 14108) から記録がある。本個体の出現も, ヨスジフエダイと同様, 黒潮による無効分散と考えられる。

598. ササムロ *Caesio caerulea* (図 1-e)

2012 年 10 月 15 日, 毘沙門定置網, 65.2 mm SL, YCM-P 45334

相模湾以南のインド・太平洋に分布する。相模湾では田ノ浦湾 (林ほか, 1992), 真鶴 (KPM-NR 95786) から知られている。本個体の出現も, 黒潮による無効分散であると考えられる。

599. オキハギ *Abalistes stellatus* (図 1-f)

2012 年 9 月 30 日, 藤沢沖定置網, 298.5 mm SL, YCM-P 45338

千葉県館山以南のインド・太平洋に分布する。相模湾では館山 (萩原・木村, 2006) から記録がある。

600. モヨウフグ *Arothron stellatus* (図 1-g)

2012 年 11 月 11 日, 藤沢沖定置網, 345.0 mm SL, YCM-P 45339

茨城県以南のインド・太平洋に分布する。相模湾では竜宮島 (松岡, 1972), 田ノ浦湾 (林ほか, 1992), 真鶴 (KPM-NR 90509) などから記録がある。

補 遺

ニホンウナギ *Anguilla japonica* (図 1-h, i)

2012 年 11 月 19 日, 毘沙門定置網, 727.1 mm TL, YCM-P 45340

本個体は, 体色が全体的に黒味がかかった灰色にやや金属光沢を備えており, 眼径が大きい。これらの特徴は, 繁殖回遊のための変化と考えられており, 「銀うなぎ」と呼ばれている (黒木・塚本, 2011)。「銀うなぎ」は秋の終わりに回遊のために海へ出るとされており (黒木・塚本, 2011), 本個体の採集時期とも一致している。

相模湾に流入する河川には, ニホンウナギがふつうに遡上しており, 近年著しい減少が伝えられてはいるが, 湘南海岸では冬季の夜間におけるしらすうなぎ漁が風物詩となっている。相模湾の海域からは Jordan & Snyder (1901), Jordan & Thompson (1914), 松岡 (1972), 清水 (1979), 工藤・岡部 (1991), Shinohara & Williams (2006) など多くのニホンウナギの記録がある。これらが「銀うなぎ」なのか, 河川に遡上せず海域に留まっている「海うなぎ」なのかはわからない。著者の一人山田は, これまでも三崎魚市場に水揚げされたニホンウナギを観察しているが (山田, 1990), 小網代湾などの海域で漁獲された個体や, 油壺湾での潜水観察 (山田, 未発表) から, 眼径や体色などに变化のある個体は確認していない。今回得られた個体は三浦半島南部の定置網で漁獲されたが, どの河川由来のものかは不明である。しかし, 天然ニホンウナギの産卵場への回帰を知る 1 資料として貴重な記録と思われるので, ここに紹介した。

ニセタカサゴ *Pterocaesio marri* (図 1-j, k)

体高の高いタイプ: 2012 年 9 月 11 日, 毘沙門定置網, 48.8 mm SL, YCM-P 45372 (1 個 体); 2012 年 10 月 12 日, 毘沙門定置網, 79.5 mm SL, YCM-P

◀ 図 1. a: ヤセオコゼ *Minous pusillus*, YCM-P 45330, 毘沙門定置網, 50.7 mm SL; b: ソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis*, YCM-P 45331, 三戸定置網, 97.7 mm SL; c: ヨスジフエダイ *Lutjanus kasmira*, YCM-P 45332, 毘沙門定置網, 48.6 mm SL; d: アオチビキ *Aprion virescens*, YCM-P 45333, 毘沙門定置網, 144.9 mm SL; e: ササムロ *Caesio caerulea*, YCM-P 45334, 毘沙門定置網, 65.2 mm SL; f: オキハギ *Abalistes stellatus*, YCM-P 45338, 藤沢沖定置網, 298.5 mm SL; g: モヨウフグ *Arothron stellatus*, YCM-P 45339, 藤沢沖定置網, 345.0 mm SL; h, i: ニホンウナギ *Anguilla japonica*, YCM-P 45340, 毘沙門定置網, 727.1 mm TL; j: ニセタカサゴ体高の高いタイプ *Pterocaesio marri*, YCM-P 45373, 毘沙門定置網, 79.5 mm SL; k: ニセタカサゴ体高の低いタイプ *Pterocaesio marri*, YCM-P 45336, 毘沙門定置網, 83.0 mm SL; l: イシダイ×イシガキダイ *Oplegnathus fasciatus* × *O. punctatus*, YCM-P 45341, 藤沢沖定置網, 153.5 mm SL.

45373 (1 個体); 2012 年 12 月 12 日, 毘沙門定置網, 93.3 mm SL, YCM-P 45374 (1 個体)
体高の低いタイプ: 2012 年 9 月 11 日, 毘沙門定置網, 50.1 mm SL, YCM-P 45335 (1 個体); 2012 年 10 月 12 日, 毘沙門定置網, 78.8-87.9 mm SL, YCM-P 45336 (5 個体); 2012 年 12 月 12 日, 毘沙門定置網, 94.8-105.7 mm SL, YCM-P 45337 (4 個体)

2012 年の 9 月から 12 月にかけて, 三浦半島周辺の定置網ではタカサゴ科魚類が, 連日数個体から, 多い日は 60 個体も漁獲された。これまで長期にわたり, しかも多数の本科魚類が漁獲されたことはなかった。これらの個体は, 体色などの特徴からニセタカサゴと同定されたが, 体高が高く体側の黄色縦帯が細いもの(図 1-j)と, 体高が低く体側の黄色縦帯が幅広いもの(図 1-k)が混在していた。これらニセタカサゴの 2 型については, 現在, 昆健志博士によって研究が進められている。

イシダイ×イシガキダイ *Oplegnathus fasciatus* × *O. punctatus* (図 1-l)

2012 年 11 月 19 日, 毘沙門定置網, 153.5 mm SL, YCM-P 45341

本個体はイシダイとイシガキダイの雑種と考えられる。これまでも観察されていたが標本が得られたので, 報告した。

お わ り に

本報告を作成するに当たり, タカサゴ類に関してご教示いただいた東邦大学理学部生物学科の昆 健志博士, 標本登録の便を図っていただいた横須賀市自然・人文博物館の萩原清司氏, 資料収集にご協力いただいた丸夕丸, 丸共丸, 共栄丸, 諸磯丸, 万七丸, 三崎沿岸漁業協同組合連合会ほかの方々に深く感謝する。

引 用 文 献

- 萩原清司・木村喜芳, 2006. 房総半島館山湾波左間周辺海域の魚類相. 国立科学博物館専報, (41): 351-387.
- 林 公義・伊藤 孝・岩崎 洋・林 弘章・萩原清司・足立行彦・長谷川孝一・木村喜芳, 1992. 伊豆半島須崎, 田ノ浦湾周辺海域の魚類(追補). 神奈川自然誌資料, (13): 17-27.
- 東 祥三・林 公義・長谷川孝一・足立行彦・萩原清司, 1989. 伊豆半島須崎, 田ノ浦湾周辺海域の魚類. 日本大学農獣医学部学術研究報告, (46): 175-185.
- Jordan, D. S. & J. O. Snyder, 1901. A review of the apodal fishes or eels of Japan, with descriptions of nineteen new species. *Proceedings of the United States National Museum*, 23(1239): 837-890.
- Jordan, D. S. & W. F. Thompson, 1914. Record of fishes obtained in Japan in 1911. *Memoirs of the Carnegie Museum*, 6(4): 205-313, pls.24-42.
- 工藤孝浩・岡部 久, 1991. 三浦半島南西部沿岸の魚類. 神奈川自然誌資料, (12): 29-42.
- 黒木真里・塚本勝巳, 2011. 旅するウナギ. 283 pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 松岡玳良, 1972. 伊豆下田白浜竜宮島付近の磯に見られる魚類. 静岡県水産試験場研究報告, (5): 88-111.
- 中坊徹次(編), 2013. 日本産魚類検索: 全種の同定, 第3版. xlix+xxxii+xvi+2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 中村一恵, 1970. 相模湾沿岸のタイドプール魚類. 神奈川県立博物館研究調査報告(自然科学), (1): 1-33, pls. 1-12.
- 瀬能 宏・牧内 元・武谷 洋, 1998. 魚類写真資料データベース(KPM-NR)に登録された水中写真に基づく熱海産魚類目録. 神奈川自然誌資料, (19): 19-28.
- 清水詢道, 1979. 小田和湾の藻場の魚類. 相模湾資源環境調査報告書-II, pp.187-191. 神奈川県水産試験場, 三浦.
- Shinohara, G. & J. F. Williams, 2006. Historical Japanese fish specimens from the Sagami Sea in the National Museum of Natural History, Smithsonian Institution. *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, (41): 543-568.
- 山田和彦, 1990. 三崎魚市場に水揚げされた魚類. 神奈川自然誌資料, (11): 95-102.
- 山田和彦・工藤孝浩・瀬能 宏, 2013. 三崎魚市場に水揚げされた魚類-XVIII. 神奈川自然誌資料, (34): 67-72.

山田和彦: 相模湾海洋生物研究会

工藤孝浩: 神奈川県水産技術センター

瀬能 宏: 神奈川県立生命の星・地球博物館